

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社ニチイ学館 鹿児島支店研修事業の名称 介護職員初任者研修

1 職務の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①多様なサービスの理解	40 分	介護職の働く場の多様性を伝える。 介護職の働く場の多様性を知ってもらうため、DVD を用いた講義 【DVD 教材使用】※訪問介護 介護保険サービス ・介護保険サービスの概要、内容 介護保険外サービス ・宅老所、障害者施設、市町村事業、ボランティアなどにおけるサービス ・高齢者向け福祉サービス			
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	320 分	【DVD 教材使用】※認知症対応型共同生活介護 ※小規模多機能型居宅介護 ※介護老人福祉施設 ※介護老人保険施設 ※介護職が働くさまざまな職場 サービスの提供に至るまでの業務の流れとチームアプローチ ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携			
合計	360 分				
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	420 分	60 分	360 分	No.1	人権と尊厳の保持 ・個人としての尊重、アドボカシー、エンパワーメントの視点、「役割」の実感、尊厳ある暮らし、利用者のプライバシーの保護 ・QOL の考え方、介護サービス提供の視点 ・介護分野における ICF ノーマライゼーションの考え方 虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業、生活保護制度

②自立に向けた介護	120分	30分	90分	No.1	自立支援 ・自立・自律支援、持っている能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性/個別ケア、重度化防止 介護予防 ・介護予防の考え方
合計	540分	90分	450分	No.1	

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	170分	80分	90分	No.1	<p>介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護サービスと施設介護サービスの違い、地域包括ケアシステムの方向性 <p>介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチーム <p>介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、医療職と連携して利用者を支える意味、互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供
②介護職の職業倫理	45分	30分	15分	No.1	<p>職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職員としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	120分	60分	60分	No.1	<p>介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードとリスク、事故に結び付く要因を探り対応していく技術 <p>事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント、リスク分析の方法と視点、事故に至った経緯の報告、情報の共有 <p>感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染とは、感染の原因と経路、感染に対する正しい知識
④介護職の安全	25分	10分	15分	No.1	<p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の健康管理、腰痛の予防に関する知識、感染予防対策
合計	360分	180分	180分	No.1	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	175 分	40 分	135 分	No.2	<p>介護保険制度創設の背景および目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換と地域包括センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 <p>しくみの基本的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的しくみ、介護給付と種類、予防給付と種類、その他のサービス、要介護認定の手順と介護サービス利用の流れ <p>制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政負担、指定介護サービス事業者の指定と国・都道府県・市町村の役割
②医療との連携とリハビリテーション	200 分	20 分	180 分	No.2	<p>医行為と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員としての関わり、特別な処置、在宅に多い医療処置 <p>訪問看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の役割 <p>施設における看護と介護の役割・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担と連携の実際 <p>リハビリテーションの理念</p>
③障害者総合支援法およびその他の制度	165 分	30 分	135 分	No.2	<p>障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の歴史 <p>障害者自律支援法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自律支援法の概要 <p>障害者総合支援法のしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法の概要、障害の範囲の見直し、障がい者に対する支援、介護給付・訓練等給付の至急決定
合計	540 分	90 分	450 分	No.2	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	180分	90分	90分	No.2	<p>介護におけるコミュニケーションとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、バISTECKの7原則 -援助関係を形成するために、傾聴と共感の応答 <p>コミュニケーションの技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、道具を用いた言語的コミュニケーション、介護におけるコミュニケーションの技法 <p>利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、家族の心理的理解、家族へのいたわり・励まし、信頼関係の形成 -利用者・家族・介護職員間の関係、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者別のコミュニケーションの特徴と方向
②介護におけるチームのコミュニケーション	180分	90分	90分	No.2	<p>チームコミュニケーションの基本・報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるチームコミュニケーションの必要性、チームコミュニケーションを促す「報告・連絡・相談」とは <p>チームコミュニケーションを促す環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の目的と意義、職場内チームカンファレンスの活用、ケアカンファレンスの重要性 <p>記録による情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、記録の種類、情報の共有化と5W1H
合計	360分	180分	180分	No.2	

6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	180分	90分	90分	No.2	<p>老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防御反応（反射）の変化、喪失体験 <p>老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体時機能の変化と日常生活への影響、各器官の機能変化と日常生活への影響、精神的機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	180分	90分	90分	No.2	<p>筋・関節・骨の変化と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 <p>高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣病、循環器の病気、呼吸器の病気、消化器の病気、腎・内分泌系の病気、脳神経系の病気、筋・骨格系の病気、泌尿器の病気、皮膚の病気、がん（悪性腫瘍）、感染症、その他の病気、介護保険の特定疾病
合計	360分	180分	180分	No.2	

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	60分	60分	0分	No.3	認知症ケアの理念 ・認知症ケアの基本視点、パーソン・センタード・ケア、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式
②医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	150分	150分		No.3	認知症の概念 ・認知症の定義、せん妄と認知症 認知症の種類と原因疾患 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症（ピック病）、その他の認知症 認知症の治療と健康管理 ・認知症の治療、認知高齢者の健康管理
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	90分	90分		No.3	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（BPSD）、不適切なケア、生活環境の改善 認知症の利用者への対応 ・認知症の利用者の理解、認知症の利用者とのコミュニケーション、環境整備、認知症の進行に合わせたケア
④家族への支援	60分	60分		No.3	認知症の受容過程での援助 ・家族の状況と心理、家族会との連携 介護負担の軽減（レスパイトケア） ・レスパイトケアとは
合計	360分	360分	0分	No.3	

8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	20分	20分	0分	No.3	障害の概念と ICF ・ ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方、ICF の評価方法 障害者福祉の基本理念 ・ 社会支援の考え方、リハビリテーションとノーマライゼーション
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	100分	100分		No.3	身体障害 ・ 視覚障害、視覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害 知的障害 精神障害 ・ 統合失調症、気分障害、依存症、その他の精神障害 発達障害 ・ 広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害・学習障害、その他の発達障害 その他の心身の機能障害 ・ 高次脳機能障害
③家族の心理、かかわり支援の理解	60分	60分		No.3	家族への支援 ・ 障害の理解と障害の受容支援、家族支援と負担の軽減
合計	180分	180分	0分	No.3	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	240 分	180 分	60 分	No.4	理論に基づく介護 ・ ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除 法的根拠に基づく介護 ・ 介護保険法と運営基準にみる介護
②介護に関するこころとしくみの基礎的理解	240 分	180 分	60 分	No.4	学習と記憶の基礎知識 ・ 記憶のメカニズム 感情と意欲の基礎知識 ・ 認知とは何か 自己概念と生きがい ・ 要介護者の課題、ストレス、精神的 拗りどころの必要性、生きがいと意欲 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻 害要因 ・ 人間としての存在価値の喪失感、障害受 容のプロセス こころの持ち方が行動に与える影響 ・ 自我の再生支援、行動変容支援 からだの状態がこころに与える影響 ・ 健康・体力と意欲の関係とその支援	

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	240分	180分	60分	No.4	<p>人体の各部の各称と動きに関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の維持、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧) <p>骨・関節・筋に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨格の知識、関節の動きと可動域を理解する、筋肉の役割 <p>ボディメカニクスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの原理、介護動作におけるボディメカニクスの活用 <p>中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢神経の役割概略(自律システム)、体性神経の役割概略(運動機能への影響) <p>自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自律神経の役割概略、老化に伴うホメオスタシス <p>こころとからだを一体的に捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こころとからだの連鎖の構造、老化に伴う心身の機能の変化 <p>利用者の普段の様子との違いに気づく視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員に求められる観察眼 <p>緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急事態に慌てないために、緊急事態と対応、心肺蘇生法とAEDの使い方
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	240分	180分	60分	No.4	<p>家事と生活の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活歴と家事、多様な生活習慣と価値観、自立支援と予防的な対応 <p>家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活の知識と生活支援、被服の知識と生活支援、清掃の知識と生活支援
	⑤快適な居住環境整備と介護	240分	180分	60分	No.4	<p>快適な居住環境に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居住環境の条件、家庭内に多い事故安全 <p>高齢者・障がい者特有の居住環境と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザイン、居住環境整備と住宅改修、福祉用具の活用と留意点
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	420分	360分	60分	No.4	<p>整容に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整容の意義 <p>整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、洗面・整髪・ひげそりなど

<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>420分</p>	<p>360分</p>	<p>60分</p>	<p>No.4</p>	<p>移動・移乗に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・移乗介助の意義、利用者と介護職員の双方が安全で安楽な方法 <p>さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・移乗に関する福祉用具の知識、福祉用具の使い方と利用者の自然な動きの活用 <p>利用者・介護者にとって負担の少ない移動・移乗の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・移乗を阻害するところと身体の要因、持っている能力の活用・自立支援 <p>移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボディメカニクスの応用、移乗介助、移動介助
<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>420分</p>	<p>360分</p>	<p>60分</p>	<p>No.4</p>	<p>食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の意義、食事のケアに対する介護職員の意義 <p>食事に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取と咀嚼・嚥下のメカニズム、低栄養と脱水、空腹感・満腹感・好みと食欲 <p>食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とところとからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の環境整備、食事に関した福祉用具の活用、食事の形態 <p>楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の姿勢・介助と誤嚥性肺炎の予防、服薬介助、口腔ケア
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>420分</p>	<p>360分</p>	<p>60分</p>	<p>No.4</p>	<p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴と清潔の意義、羞恥心や遠慮への配慮、入浴動作の安全 <p>さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具の活用 <p>楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴介助、全身清拭、足浴・手浴・洗髪、陰部清浄、目・鼻腔・爪・耳の清潔方法

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>420分</p>	<p>360分</p>	<p>60分</p>	<p>No.4</p>	<p>排泄に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは、排泄のメカニズム、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、プライドの尊重と羞恥心への配慮、おむつの使用と弊害 <p>さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの環境整備、排泄用具の種類と活用 <p>爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ介助、ポータブルトイレ介助、尿器・差込便器の使用、おむつ交換
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>420分</p>	<p>360分</p>	<p>60分</p>	<p>No.4</p>	<p>睡眠に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の意義、睡眠のメカニズム、安眠のための介護の工夫 <p>さまざまな睡眠環境と用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の整備、ベットメイキングの方法 <p>快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡の知識と予防、体位変換、安楽な姿勢(回復体位についてふれる) <p>生から死への過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の死に至る過程、臨終が近づいたときの兆候と介護 <p>死に向き合うところの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死を間近にした人の心身の変化と望ましい介護 <p>苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の基本的態度、多職種間の情報共有の重要性

	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	150分	90分	60分	No.4	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・終末期ケアとは 生から死への過程 ・高齢者の死に至る過程 ・臨終が近づいたときの兆候と介護 死に向き合うところの理解 ・死を間近にした人の心身の変化と望ましい介護 苦痛の少ない死への支援 ・介護職員の基本的態度 ・多職種間の情報共有の重要性
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	270分	介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とは何か、介護過程の展開 介護過程とチームアプローチ ・介護過程とチームケアの関係			
	⑭総合生活支援技術演習	360分	事例検討 ・演習の方法、事例検討			
合計		4500分				
10 振り返り (5時間)						
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①振り返り		180分	研修を通じて学んだこと ・研修全体を振り返る 今後継続して学ぶこと ・介護職員が身につけるべき知識や技術 根拠に基づく介護についての要点 ・利用者の状態に応じた根拠に基づく介護、根拠に基づく介護の展開としてのチームケア			
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修		120分	継続的に学ぶこと ・介護職員の仕事内容や働く職場における継続的学習の理解 研修修了後における継続的な研修について ・事業所などにおける継続的な研修の概要 キャリアアップに関する国の考え方 ・介護職員のキャリアパス、介護プロフェッショナルのキャリア段位制度			
追加 研修全体の知識習得度に関する修了評価		60分	修了試験			
合計		300分				
全カリキュラム合計時間			131時間			

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること